



ガーデンツーリズム登録記念座談会



JAPAN
GARDEN
TOURISM

Withコロナ、Afterコロナ時代の 「花と緑のおもてなし」

2020年10月、ガーデンツーリズムに「雪舟回廊協議会」(岡山県・広島県・島根県・山口県)と「むさしの・ガーデン紀行連絡協議会」(東京都)が新たに登録されました。その交付式が同17日、「第37回全国都市緑化ひろしまフェア(ひろしま はなのわ 2020)」の都市緑化シンポジウム内で開催され、前日に広島市内のホテルで記念の座談会も行われました。

With コロナ、After コロナ時代の「花と緑のおもてなし」について熱心に意見が交わされた座談会の模様をお届けします。

interview



庭園間交流連携促進計画登録審査委員会 委員長

Shiro Wakui

涌井史郎氏



雪舟回廊協議会 事務局

Koutaro Nakashima

中島光太郎氏



むさしの・ガーデン紀行連絡協議会 代表

Toshihiko Suzuki

鈴木俊彦氏



第37回全国都市緑化ひろしまフェア実行委員会事務局 事務局長

Toshihiko Yuzaki

湯崎俊彦氏



ネットワークを生かし連携してこそできること

涌井

2020年はコロナ禍により「ひろしま はなのわ 2020」も大変だったとお察しします。情熱を傾けて準備を進めてこられたと思いますが、まずはその概要をお教えてください。

湯崎

「ひろしま はなのわ 2020」は全国都市緑化フェアの歴史において、初めて県内の自治体すべてが主催者となって開催する花と緑の祭典となりました。広島はご承知のように原爆による被害から復興を遂げた、花と緑あふれるまちです。2020年は被爆75年の節目であり、広島の魅力を国内外に広く発信する絶好の年ととらえていました。地元高校生の発案による言葉「花笑(はなえみ)」もテーマに盛り込み、宮島、呉、尾道など多島美で知られる瀬戸内海エリアから、人気の神楽や日本神話の伝説も残る中国山地エリアまで23の市町が連携して地域の宝を磨き上げてきました。会場もメインとなる広島市の中央公園及びその周辺のみならず、県内各地に広がっています。



涌井

ネットワークを生かして取り組む、というのはまさにガーデンツーリズムにも通じる精神ですね。そのつながりはきっと今後にも生かされていくのではないですか。広域という意味では、雪舟回廊協議会は県をまたいだ連携になりますね。

中島

はい、この協議会は中国地方6市による「雪舟サミット」を母体としています。2年に1回のペースでサミットを開催し、情報交換しながら友好の輪を広げてきました。その積み重ねがあったからこそ今回の登録につながったのだと思います。ガーデンツーリズムのことは島根県益田市の民間団体の方から伺い、各市の合意形成に向けて奔走してきました。今後は、情報発信に力を入れるとともに、山口・島根に点在する庭園を1〜2時間で巡るようなマイクロツーリズムの提案をはじめ、将来的には6自治体を巡る雪舟の足跡に出会える旅の実現へとつながっていきたくと思っています。

涌井

雪舟というのは素晴らしい着眼点です。しかし地元の方は意外と自分の地域のことをご存じない。せっかく見事な庭園があるのに、もったいないことです。ぜひ地域の気づきを大事にして、紅葉狩り、ホタル観賞、雪見など、多彩なテーマのルートを設定していただけるとうれしく思います。さて、むさしの・ガーデン紀行連絡協議会は東京都内における連携ですが。

鈴木

私たちは東京都の地図で見るとちょうど真ん中辺り、6〜8市によるネットワークを形成しています。私がそこに住み始めたのは20年ぐらい前ですが、都心で会社勤めをしていたため地元のことはまったく知りませんでした。10年ほど前にこの活動を始めてみると、「ここが東京なのか」と驚くほど緑が多い。国分寺崖線、玉川上水、さらに軍事施設が戦後に大規模公園や大学に変わり、そのまま豊かな緑として残っている。私から見れば奇跡的な場所です。この癒しの空間をもっと多くの方に知っていただこうと、「森の地図スタンプラリー」などのイベントも行ってきました。そこには、回遊することで地域を点ではなく面として楽しんでほしいという思いがあります。今回の登録をよき機会として、エリア全体がひとつの大きなガーデンと感じられるような展開をめざしていきたいと思います。



涌井

明治の文豪・国木田独歩も書いていますが、迷うのもまた楽しいのが武蔵野エリアですね。今もワサビ作りが行われていたり、日本酒の酒蔵があったり、話題には事欠きません。まさにお出かけにはふさわしいところですね。

コロナ禍での気づきと新しい「おもてなし」

涌井

皆さん、コロナ禍のただ中であってどんなことを思われましたか。

湯崎

三密を避けるために当初予定していたイベントと集客は断念せざるを得ませんでした。自粛ムードの中でも憩いの場として近隣の方々にご来場いただき、ゆっくり見てもらえたのではないかと思います。「こういうときだからこそ開けてもらえてよかった」と喜びの声もあれば、反対に厳しいご意見もありましたが、事務局としてはその都度丁寧に説明申し上げてきたつもりです。結果的に花と緑が持つ優しい力というものを、あらためて感じることになりました。

中島

誰も経験したことのない時代を今まさに生きているんだな、ということも私も強く感じます。だからこそ人によって考え方も違うわけですね。例えば、益田市と山口市で6月にスタートする予定だったデジタルスタンプラリーの企画があったのですが、コロナの影響で延期になりました。少しずつですが、経済活動の再開を受け、主催者の意向もあり8月にはスタートすることになったのですが、反応は受け入れ施設によって様々でした。利用する側、受け入れる側、双方にとって気持ちのよい仕組みを考えることが大事だとつくづく痛感しました。



鈴木

私たちの「森の地図スタンプラリー」は春と秋に開催していますが、春は当然中止となりました。このスタンプラリーはアナログな、リアルな体験を重視しているため、コロナは致命的でした。そこで秋はコロナ対策を十分に行った上で、スタンプを置かないクイズ形式のスタンプラリーを実施することになりました。今まではただスタンプを押すだけでしたが、より地域を知ってもらうための新たなチャレンジですね。これはコロナによってもたらされた展開と言えるでしょう。

涌井

それぞれにWith コロナ時代のおもてなしのあり方を模索しておられるんですね。人類の歴史を振り返ると、中世ヨーロッパに蔓延したペストの例からも分かるように、文明の転換点には必ずパンデミックがありました。今回のコロナは世界が同じ経験をしているのですから、これはもう同じ社会には戻らない、新しい社会になっていくはずですね。地球環境問題からもトランスフォーマティブ・チェンジ(根本的な変革)が求められているところにコロナが来たわけで、確実に構造変容は起きます。

そのときに何が大事かといえば、私はやはり花や緑の持つ力だと考えます。公園、庭園、花、緑に着目し、これを適正に計画しコリドー(回廊)として活性化させていくことが重要なのです。

鈴木

そうですね。例えば大きなイベントで人を集める、大型バスで団体旅行を呼び込む、というようなことをしていたのも、これからは集中を分散する方向に変わっていくのではないのでしょうか。その際に地域を面としてとらえれば、有名な観光地じゃなくても花があり緑があり、日常的に楽しめる場所がある、と気づいていただけるはずです。そのためには地域全体でおもてなしをすることがますます大事になってくると思います。



涌井

そうすると人々の意識も、緑道や遊歩道など日常の景色も感受性に取り込みながらライフスタイルとして楽しむ、という風になっていくでしょうね。

湯崎

私たちが点を線に、線を面に、ということを広島県全体でやろうと取り組んできました。一方で、家庭でガーデニングをしたりプランターで何かを育てたりといった自発的な動きの中から「じゃあうちもやってみよう」という輪が地域の皆さんに広がっているのを感じています。こうした活動は行政の支援だけでなく、いろんな人の相互補完あってこそ長く続きます。そしてその延長線上にイベントやツーリズムも位置付けられるのではないのでしょうか。そうやって花と緑のおもてなしの裾野が広がっていくのはうれしいことです。

中島

雪舟回廊の庭園は、雪舟の水墨画や仏教の世界観を表現しているものなので、10~20分で慌ただしく見るのではなく、じっくり鑑賞していただければと願っています。眺めるだけで何となく落ち着き、リフレッシュできる、ぜひそういう時間を過ごしていただきたい。じっくり向き合うことでしか得られない魅力は必ずあります。

涌井

「景観」というのはただ目で見るとはならず、心に映ることを自らの気づきにするということですね。これからはいろんな見方、多様な楽しみ方がより出てくるのではないかと思います。

花と緑が心を豊かにする成熟の時代へ

涌井

モノから心へ、成長から成熟へと社会が変容していく時代にあって、花や緑が持つ役割・価値はどのようなものになるとお考えですか。

湯崎

例えば自分の家に少しでも花を飾ってみる、そういう一本の花を大事する心が、さまざまな社会問題を解決する糸口にもなっていくのではないのでしょうか。私は入庁したとき先輩から「緑に携わる仕事をするなら机に花でも飾ったらどうか」と言われました。「それはいいな」と思ったのですが、「でも一輪の花を枯ら



さないことがどれだけ難しいか」とも言われ、ドキッとしました。確かに植物の世話をするのは大変ですが、手をかけて花が咲いたときの喜びは格別です。それに気づけるかどうかは大きな違いです。そういう仲間を増やしていく仕掛けづくりが何かできないかな、と考えています。

涌井

それがまさに「はなのわ」なのではないですか。冒頭におっしゃった「花笑(はなえみ)」という高校生による言葉も大変素晴らしいと思います。

鈴木

花や緑を嫌いな人ってあんまりいないですよ。人がつながっていくときに花と緑が媒介の役割を果たすと、とても素敵なまちになると思います。そしてそれが観光ということにもつながるのではないのでしょうか。実は私自身55歳までは仕事ばかりで、花に目が向かない生活を送っていました。今はまさにそれを取り戻している感じです。

涌井

それは大事なことだと思います。人間の幸福とは何かを考えると、やはり富を手に入れることよりも自分らしく生きていけるかどうか最終的な解ではないかという気がします。社会が成長から成熟へとベクトルを切り替えていくとき、花や緑はそういう方向に人の心を向けさせてくれるものだと思っています。思えば雪舟が活躍した時代も戦や伝染病が多く、大変な時代でした。



中島

そうですね。雪舟が水墨画を描き、庭園が造られた時代背景も知っていただければ、より深く鑑賞できると思います。

鈴木

歴史やいわれにも興味を持っていただければ、リピーターの方も増えますよね。リピーターはとても重要な存在だととらえています。また、1カ所をじっくり見ていただくということは、宿泊日数が増えるなど地域全体への滞在時間が長くなりますので、経済的な貢献もできるはず。私たちはそのプラットフォーム的な役割を果たしていきたいと考えています。

中島

連携するという意味では、このたびガーデンツーリズムに登録されたことは大きな刺激になりました。2020年は雪舟生誕600年の年であり、岡山県総社市で生誕記念のサミットも開催されます。県をまたいだ取り組みでは自治体ごとに温度差も生じやすいのですが、登録を起爆剤として6市がより連携を深めていきたいです。

湯崎

私たちも「ひろしま はなのわ 2020」がガーデンツーリズムの登録へと大きく歩みを進める契機になればと思っています。また、今回フェアを通して子どもたちの感性の素晴らしさにも気づくことができました。テクニカルなことを教えるよりも、感じる心を育むプログラムをもっと提供できればと考えています。



涌井

皆さんの今後のお取り組みに期待しております。私は妻と犬と散歩をするときに食べられそうな草や花を探すのを密かな楽しみにしているのですが、そのためには例えばオカメザサやクマザサの新芽は甘いかとかそういうことを知っていることが大事です。まずは気づきを入口に、次はそれを展開して…という風につながっていけば、いろんな意味で豊かさとか成熟の方向に広がっていくと思います。花と緑は間違いなく幸せを導き出すツールです。本日はありがとうございました。

